

崑崙の未踏峰(6,345m)登頂の概要

1. 雲南と崑崙

- ① 西南シルクロードの繋がり…交易路の存在 (張騫の帰朝報告—大夏国(バクトリア)で四川省産の竹杖と絹布を見たという報告—に基く、【史記】「大宛伝」「西南夷伝」に描かれた世界)
- ② 今でいう四川省～雲南省～ミャンマー～アッサム～北インド方面そしてパミールを越えてバクトリア(ヒズーグシュの北方)に通じる交易ルートが存在。

2. 遙かなる憧憬の地「西域」— 通える夢は崑崙の高嶺の彼方ゴビの原 — 旧制三高寮歌…逍遙の歌

3. ゴビの原

- ① ゴビとは…蒙古語で砂礫を含むステップの意。現在のモンゴル国南東部から天山南路に至る砂漠と半砂漠地帯をいう。
- ② 北方の有力騎馬民族「匈奴」と秦(始皇帝、在位前221年～前210年)・漢(武帝)帝国の死闘・秦の將軍蒙恬と北辺の防禦線修理・構築；「万里の長城」、漢の高祖(在位前202年～前195年)の大敗北；「平城の恥」(前200年)
- ③ 武帝の時代(在位前141年～前87年)
 - ・張騫の西域(大月氏国)への派遣 — 遠交近攻の策 — 「張騫の觀察眼と司馬遷の記録」
 - ・大將軍「衛青」と驃騎將軍「霍去病」の活躍。飛將軍李広の自死。
 - ・祁連山脈・河西廻廊、酒泉という地名に残る若き將軍、霍去病。前121年、前119年の圧勝。
 - ・悲運の武將李陵(中島敦の文学)。李陵の投降(前99年)と司馬遷の悲劇。蘇武の節義。
 - ・李広利の大宛(タジク共和国のあたり)遠征…汗血馬(天馬)を求め、前104年大宛降伏す。一族の族滅から逃れた李広利の投降(前90年)と非業の死。
 - ・武帝の死後、前60年、匈奴日逐王、漢に降る。同年、西域都護を設置(クチャの東方)。
 - ・連綿と続く漢の対匈奴和平政策と王昭君哀話(前33年頃)。

4. シルクロード逍遙 <2004年4月>

- ① 西安 — 長安城西の大門「安定門」に立ち、西方を遠望す—
- ② 空路ウルムチ、更に20世紀初頭の英・露間のグレート・ゲームの中心カシュガルへ。— 胡姫の華麗な踊り—
- ③ ヤルカンド～イエチェン～西域南道～タクラマカン砂漠縦断～天山南路を経てトルファンへ。
- ④ 鉄路トルファンから敦煌(駅名は柳園)へ。再び敦煌から河西廻廊をとおり西安まで汽車の長旅。
- ⑤ シルクロード、東西文化の伝播と交流、名付け親リヒトホーフェンとその弟子スウェン・ヘディン。

5. 崑崙の未踏峰探索の旅 <2004年9月～10月>

- ① 所要日数、費用、万一の場合の撤退し易さ等の点から、車でのアプローチの容易な事…新蔵公路側。
- ② 中高年隊として登攀し易い白きたおやかな6,000m峰。(アクサイチン湖北方、大紅柳灘北方他)
- ③ 「自分の身体は自分で守る」ことの大切さ…海外保険、体調管理、医薬品、高所順応(時間余裕)

6. そして崑崙へ <2005年7月～8月>

- ① 国内での準備…氷雪登攀技術訓練、(出発直前の)富士山登山&山頂宿泊、加えて低圧室の利用
- ② エージェントの選定、仕様書による要求内容の確認、契約書取り交し。
- ③ 最重要課題、それは高所順応。日本出国までの体調管理が大切。疲れを持たないように。
- ④ 成田を出たその日にウルムチに入る。翌日はもうタリム盆地最西端の町カシュガル。
- ⑤ 私達2名は、カシュガルを出て高所順応の一環としてタシュクルガンを訪問(一泊、4,000mの峠を2回ゆっくり歩いて通過)、カシュガルに戻り一泊(後発2名が合流)、ヤルカンド経由イエチェンに移動して1泊、イエチェンからアカズ峠(3,240m)を越えてクディ泊、セラク峠(4,900m)を越えてマザ泊、翌日へイカ峠(4,930m)を越え軍の駐留する三十里営房を経由してBCの大紅柳灘(4,155m)に入った(成田を出て8日め)。峠を通過するたび、ゆっくりと順応歩行を繰り返す。
- ⑥ 山容は乗鞍岳のようで、乗鞍高原下方の「番所」から上を目指す感じの、重量感のある山でした。
- ⑦ 山名は日本語「Yume Muztagh」、中国語「慕士塔格夢」、ウイグル語「Muztagh Chush」と命名。

7. 新疆ウイグル自治区に見る中国の課題

- ① 西部大開発(石油&ガス)、豊かな社会と昔とさして変わらぬ遊牧民。オアシスに生きる人々。
- ② 世界のエネルギー資源を貪欲にがぶ飲みし廃棄する中国。世界第2の石油消費国、原油価格の高騰。
- ③ 漢族と異民族、少数民族の葛藤。ラサへの鉄道開設に見る懐柔。クディで見た、チベット自治区に向けた軍用車輛200両の示威行軍。
- ④ イスラム化の動向

以上

【主たる参考文献…ご参考】

- | | |
|--|----------|
| 1. 井上 靖・司馬遼太郎「西域をゆく」 | 文春文庫 |
| 2. 司馬遼太郎「中国・蜀と雲南の道」街道をゆく 20 | 朝日文庫 |
| 3. 岩村 忍「シルクロード」—東西文化の溶炉— | NHK ブックス |
| 4. 岩村 忍編「世界の歴史5」—西域とイスラム— | 中公文庫 |
| 5. 西嶋定生「秦漢帝国」—中国古代帝国の興亡— | 講談社学術文庫 |
| 6. 長沢和俊「張騫とシルクロード」 | 清水新書 |
| 7. 沢田 勲「匈奴」—古代遊牧国家の興亡— | 東方書店 |
| 8. 富谷 至「ゴビに生きた男達」—李陵と蘇武— | 白帝社 |
| 9. 中島 敦「李陵・山月記」 | 角川文庫 |
| 10. 司馬遷「史記列伝I・II」 貝塚茂樹・川勝義雄 訳 | 中央公論新社 |
| 11. 武田泰淳「司馬遷」—史記の世界— | 講談社文芸文庫 |
| 12. 佐藤武敏「長安」 | 講談社学術文庫 |
| 13. 阪倉篤秀「長城の中国史」—中華 vs 遊牧 六千キロの攻防— | 講談社 |
| 14. 金子民雄「西域 探検の世紀」 | 岩波新書 |
| 15. 松本徂夫「シルクロード探遊」 | 葦書房 |
| 16. 酒井敏明「旅人たちのパミール」—玄奘、マルコ・ポーロはどの道を通ったか— | 春風社 |
| 17. 社団法人京都大学学士山岳会「AACK 時報 No. 11」 | |